

バージョン5

データ移行ガイド

～指定した物件のデータを他のPCへ移行するには

消防設備点検票作成ソフト『バージョン5』へようこそ。
このマニュアルは、『バージョン5』を使いこなすためのガイドです。
既に『バージョン5』をご利用の方で、事務所内の他のパソコンでも『バージョン5』を利用したい方は、このガイドに従ってデータを移行してください。

- 1 移行先PCに最新版をインストール
- 2 最新版のサンプルデータを削除
- 3 移行元PCでデータ退避後に削除
- 4 data フォルダを移動
- 5 移行先PCで基礎データを復元
- 6 移行先PCで物件データを復元

必ず、ここから始めてください

1 移行先PCに最新版をインストール

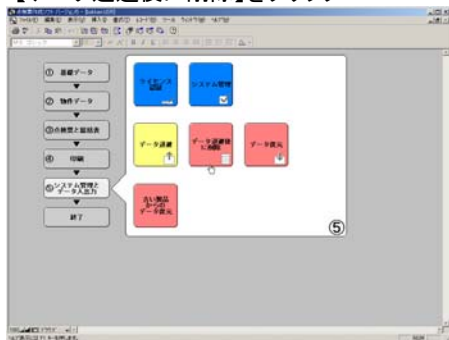
まず、移行先PCに、最新版の消防設備点検票作成ソフト『バージョン5』をインストールします。

最新版を見分けるには、構築番号を見ます。構築番号は、ソフトの起動画面に表示されます。また、ダウンロードファイルの末尾2桁の数字や、インストール後に作成される起動用アイコンの末尾2桁の数字でも分かります。

【注意】既に「バージョン5」を利用して、かつ、現在使用しているソフトと同じ構築番号を同じPCにインストールすると、既に入力してあるデータが完全に削除されます。

2 最新版のサンプルデータを削除

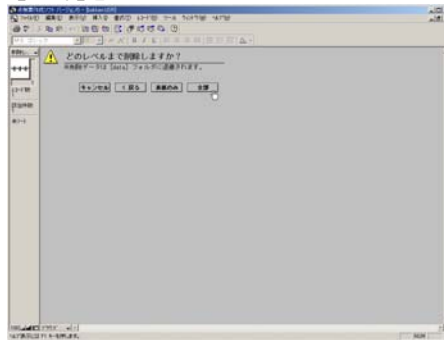
① 【データ退避後に削除】をクリック



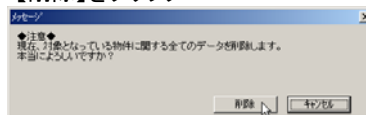
② サンプルデータのみ対象にして【次へ>】をクリック



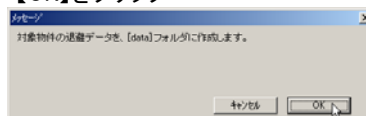
③ 【全部】をクリック



④ 【削除】をクリック



⑤ 【OK】をクリック

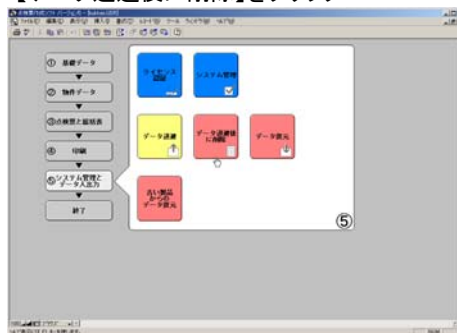


⑥ 完了したら、最新版を終了してください

3 移行元PCでデータ退避後に削除

移行元PCで、『データ退避後に削除』を実行します。
『データ退避後に削除』を実行すると、指定した物件のデータを退避した後に、当該データベースより該当するデータを抹消します。
指定した物件の点検票データは、後述する data フォルダ内に収められます。
指定した物件数が多い場合、『データ退避後に削除』にはかなりの時間を要します。『データ退避後に削除』の実行中には他の操作を行うことが出来ませんのでご注意ください。

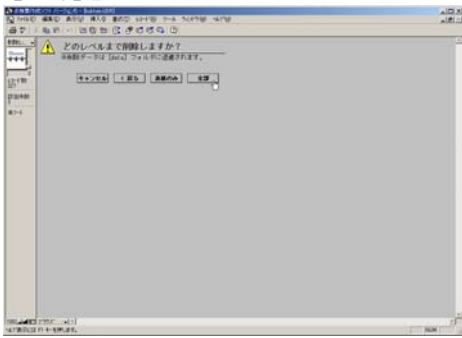
① 【データ退避後に削除】をクリック



② 移行したい物件だけがリストに表示されるようにします。
1 物件であれば、その物件をクリックした後に、【対象】ボタンを押すと、その物件のみが選択されます。
複数物件を選択する場合は、一度、選択したい物件を【対象外】ボタンでリストから外し、最後に【入替】ボタンを押すと、複数物件の指定が出来ます。最後に【次へ】をクリックします。



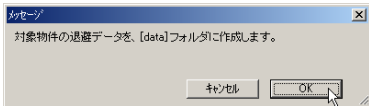
③ 【全部】をクリック



④ 【削除】をクリック



⑤ 【OK】をクリック

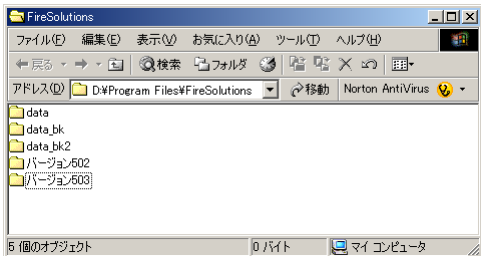


⑥ 完了したら、「バージョン5」を終了してください

4 data フォルダを移動

退避データは、C:\Program Files\FireSolutions\data に保存されます。インストールドライブが D のときは最初の文字が C ではなく D となります。この退避データ(data フォルダ)を、移行先PCの同じ場所に移動します。

- ① スタートメニューのプログラムから「点検票作成ソフトバージョン5xx」を選択し、その中にある【退避データ[data]を参照】をクリックします。すると、ファイヤー・ソリューションズ・ウィンドウ(FireSolutions)が開きます。



- ② このウィンドウの中にある『data』フォルダを、他のパソコンの同じ場所へ移動して下さい。また、この『data』フォルダを圧縮して、メールに添付し送信することも出来ます。さらに、この『data』フォルダをCD-ROMに保存すれば、いざという時のためのバックアップとなるでしょう。

- ③ 『data』フォルダが、移行先PCの同じ場所に移動できたら、次に進んでください。

【注意】移行先の同じ場所に既に data フォルダがある場合は、別の名前に変更して保存しておいてください。直接上書きしてしまうと、前の data フォルダ内にあったデータは削除されます。

【参考】

各データ・フォルダの内容は次の通りです。

『data』フォルダ	直前の退避データ
『data_bk』フォルダ	1つ前の退避データ
『data_bk2』フォルダ	2つ前の退避データ

既に退避データ(『data』フォルダ)が作成されている状態で、【データ退避】及び【データ退避後に削除】をすると、『data』は『data_bk』に、『data_bk』は『data_bk2』に、それぞれ名前が変更され、新たに『data』が作成されます。この時、『data_bk2』フォルダは削除され、3つ前の退避データは失われます。ご注意ください。

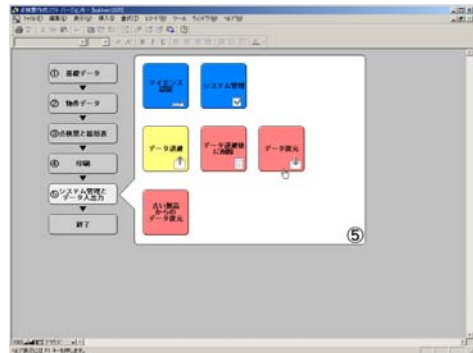
【データ退避後に削除】の操作で作成されるデータの保管場所は、【データ退避】操作のときと同じ『data』フォルダです。

5 移行先PCで基礎データを復元

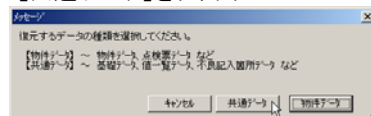
移行先PCで、データ復元(リストア)をします。データ復元は、基礎データと物件データそれぞれに対して行う必要があります。

【注意】最初に、基礎データの復元を行ってください。

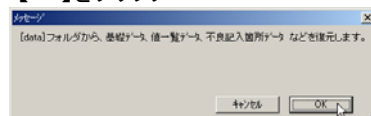
① 【データ復元】をクリック



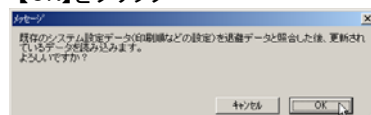
② 【共通データ】をクリック



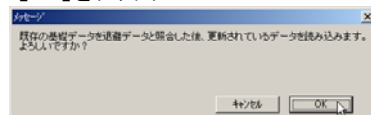
③ 【OK】をクリック



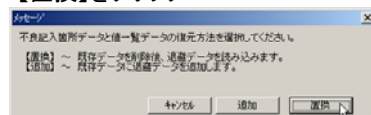
④ 【OK】をクリック



⑤ 【OK】をクリック



⑥ 【置換】をクリック



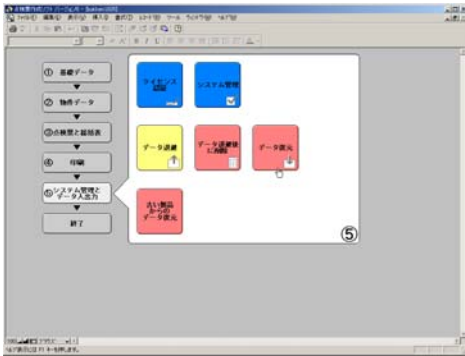
- ⑦ 元の画面に戻ったら基礎データの復元は完了です

6 移行先PCで物件データを復元

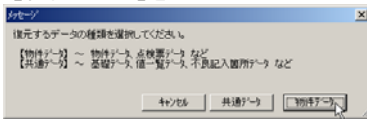
基礎データの復元が完了したら、物件データの復元を行います。

【注意】最初に、基礎データの復元を行ってください。

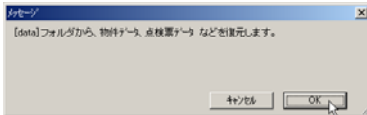
① 【データ復元】をクリック



② 【物件データ】をクリック



③ 【OK】をクリック



④ 元の画面に戻ったら物件データの復元は完了です

7 最後に

バージョン5では、データベースソフトとしては、比較的容易にデータの移動が出来るように考慮されています。

しかし、ワープロや表計算ソフトなどとは、まったく異なるソフトですので、あっちこっちにデータを持って移動する事には向いていませんし、そのような使い方は、あまりふさわしくありません。

複数のPCでデータベースソフトを利用する場合は、ファイルメーカーProという市販のパッケージソフトを利用してデータベースを共有する事をお勧めします。ネットワーク化の詳細については、弊社ホームページをご覧ください。

ただし、「バージョン5」はファイルメーカーPro6以前の製品に対応しており、ファイルメーカーPro7には対応しておりませんので、あらかじめご了承ください。